

## 令和元年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第1回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開催日時	令和元年7月5日(金) 午前10時から12時
開催場所	葛飾区役所5階 庁議室
出席者	【委員7人】 小松原会長、大畑委員、上村委員、田中委員、F委員、西山委員、村上委員 【区側7人】 事務局(経営改革担当課長、事務局職員4人) 障害者施設課(鈴木課長、田村係長)

### 会議概要

#### 1 開会

(事務局より資料の確認等を行った)

#### 2 事務事業の概要説明、ヒアリング(障害者週間行事)

(障害者施設課より「障害者週間行事」の概要について説明をした後、質疑応答、議論)

A委員 : 成果指標の目標値は毎年1,600人で変わらないが、どういった根拠でこの数字を設定しているのか。

障害者施設課 : おおよその見込みである。同日程でフードフェスタが新小岩で開催されており、来場者数の伸びが期待できないことから、この数字を目標値に設定している。

A委員 : 資料には、より多くの人に知ってもらいたいと記載してあるので、まずは目標値の設定を見直したほうがいいと思う。

B委員 : 作品展の出品数を増やしていきたいのか。

障害者施設課 : 作品展の出品数と、障害者作品展の来場者数を増やしていきたい。

B委員 : 来場者数が伸びない原因は、どのように分析しているのか。

障害者施設課 : 当日おまつりに来場された方に対する呼び込みや、PRが足りないと認識している。

B委員 : 才能ある障害者の方を見つけられていない。作品を飾るスペースがないのに、出品数を増やすことは難しいのではないかと方向性

と実施方法が間違っているのではないか。

C委員 : 作品の種類によって場所を変えて展開するなどの方法があると思うが、例えば区役所で作品を展示することは難しいのか。

障害者施設課 : 地区センターまつりで展示しているが、それ以外の場所では、展示したことがない。ウエルピアかつしか以外にも、他の場所で展示することは考えられる。

C委員 : 作品の公募をもっと工夫する必要がある。

D委員 : 障害者週間行事が事業名なので、作品展以外のイベントを実施しても良いのではないか。例えば、来年パラリンピックがあるので、それに関連したイベントを実施することも面白いと思う。また、広報媒体をより一層活用しないと、来場者数は増えない。

E委員 : ウィメンズパルは一年に一回パルフェスタを開催しているが、アクセスも良く、展示場所として良いと思う。

F委員 : アンケートで感想などは聞いていないか。良かった点、改善点を入れた方が良いと思う。出品サイドはどのような意見を持っているのか。

障害者施設課 : 次回資料として提出する。

F委員 : 事業の目的は、障害者が地域とふれあう場を作るとなっているが、作品を展示しているだけの印象がある。おまつりとしての一貫したテーマや、おまつりの仕掛けが足りない。毎年、何かテーマを作って、他部署と連携して出来ると良い。また、作品を一週間だけ展示するのではもったいない。作品を多様な場所で展示して、たくさんの地域の方に見てもらうことが、ふれあいの場につながると思う。「いいね」のような軽い評価をしてもらうのも良いと思う。投票してもらった人はもちろん、投票したらスタンプラリーが押されるなど、双方にとってメリットがある仕掛けがあると良い。障害のある人もない人も、例えば合唱など、一体感を醸し出せる何かをやると良い。

小松原会長 : 事業名が障害者週間行事なので、11月、12月に事業を実施しないといけないと感じる。この事業名を作品展などに名前を変えないと難しい。またウエルピアまつりでは子ども福祉相談等も今回の事業の一環で実施しているが、相談コーナーのアンケートや資料などはないのか。予算などはどうしているか。

障害者施設課 : 資料は用意していない。子ども福祉相談は区の職員がやっている。

小松原会長 : 作品展以外の資料と、区では他にどのような関連事業を実施しているか比較したいので、資料を次回までに用意してほしい。

- C委員 : F委員がおっしゃったように、テーマが非常に大事だと感じている。一緒に楽しむことなどにテーマを絞って、実施することが重要である。また、まずはPRで盛り上げることが大事なので、区が行っている動画配信サービスなどを活用すると良いのではないか。パンフレットも非常に分かりにくい。作品の写真やイラストを掲載するなど、改善点が多々ある。費用をかけられないのであれば、WEB展開するなど、知恵を絞るべきだ。
- 小松原会長 : まつりの来場者の目的が、バザーなどの買い物にならないように工夫する必要がある。今のままでは、事業本来の目的である障害者への理解促進が欠けている。
- F委員 : まつりの名前を一新して、新たなスタートを切ることも一つの手段だと感じる。ウェルピアまつり、ボランティアまつりでは区民に響かない。キャッチコピーもパラリンピックなど、その年に関連した用語を取り入れると良いのではないか。
- D委員 : 事業の目的が、障害者への理解促進を図ることなので、作品展のみに拘る必要はない。来場者数が少ないことは、イベントの新鮮さがなくなっていることが原因ではないか。
- C委員 : 私は、イベント自体はとても魅力的だと感じている。イベントの良さが上手にPRできていないことが問題だと思う。
- 小松原会長 : まつり全体はバラエティに富んでいて魅力的だと思う。区が行っているウェルピアまつりが企画、広報含めて新鮮味がなくなっている。毎年同じ作品展だけではなく、スポーツなど多角的に考えるべきではないか。委員は方向性や実施方法を改善するべきと感じているが、所管課が実施内容の確認に重きを置いていると、齟齬が出てしまう。
- F委員 : 以前から社会福祉協議会と合同で、まつりを開催していたのか。
- 障害者施設課 : ボランティアまつりは、ウィメンズパルで実施していたが、平成17年にウェルピアかつしかが完成し、社会福祉協議会と一緒に実施することになった。
- A委員 : 作品展以外の来場数は、カウントしていないのか。
- 障害者施設課 : 今は資料としてないが、おそらくカウントしていると思う。
- A委員 : ウェルピアまつり全体の来場者数も、成果指標にあっても良いと思う。
- 障害者施設課 : 成果指標はこの数字が分かりやすいと考えて、この数字を使用している。ウェルピアまつり自体は一日しかやっていないので、大きな数字は出ないと思う。

- 小松原会長：車いす体験以外にも、多くの体験コーナーがあっても良いと思う。  
過去にどのようなことをやっていたか資料が欲しい。
- B委員：社会福祉協議会で募集したボランティアは、車いす体験などに参加しているのか。
- 障害者施設課：障害者施設課で実施しているので、ボランティアはいない。
- D委員：アンケートを見ると、年齢構成比は40代が多いので、若年層の啓発をもっとやるべきだ。来場者はリピーターが多いと思うので、啓発になっていない。
- 障害者施設課：来場者は、出品者や施設の関係者などで固定されていると思う。バザーが目的で来場している人を、どう作品展に呼び込むかが、課題だと考えている。他にも、ウェルピアカつしかは交通の便が悪いこと、PRが足りないことが問題だと思う。
- F委員：出品者にはどのように声をかけているのか。費用はかかるのか。
- 障害者施設課：費用はかからない。作品は一般募集と施設に公募している。
- F委員：個人にはどのように募集しているか。
- 障害者施設課：広報かつしかで募集している。
- F委員：個人の参加を増やしたいのであれば、もっと広報するべきだ。
- C委員：区内在住の障害のある方はどのくらいいるか。健常者と障害者の来場者数の内訳が分かれば教えてほしい。映像展示なども良いと思う。VRなどで健常者が、視覚障害などの世界を体験するイベントも興味深いのではないか。
- F委員：若い人には、プロジェクションマッピングなども興味深いと思う。
- C委員：練馬区で行われている、健常者も分かるユニバーサルデザインの展示なども面白いと思う。
- 小松原会長：コストの部分で、特定財源が歳入として計上されているが、事業を実施すると貰える費用と考えて良いか。
- 障害者施設課：その通りである。他の事業と合わせて申請するため、費用が増えたからといってその分が増額になるとは限らない。
- C委員：区の事業はJCOMなどの番組で取り上げられることもあると思うが、MXテレビで紹介されたことはあるか。紹介されたことがないなら、そういった広報媒体を活用することも、有効だと思う。
- F委員：区の障害者関連事業を行っている部署が分かりにくい。障害者スポーツであればスポーツ課など、他にも事業を行っている部署があれば教えてもらいたい。
- E委員：集客を増やすなら、小型バスなどをチャーターしても良いと思う。

### 3 その他

事務局より事務連絡

### 4 閉会